

萬國新聞紙 第一

慶應四年戊辰閏四月

西垣文庫
文庫10
7369
1



持 文庫10
7369
1

萬國新聞紙第一



英國教師ヘーリー先生徧

前集日本商人二人の不正なる支件を出し諸
人其報告も是亦懲悪の意あり
在滯外國人皆變約不正の者を此新聞紙に
加へ出して其罪を顕わさん
方今日本に於て拳國盛に砲術を操練するに因
て今爰に施條銃狙発直中法を拳を指示あり只
近き距離のしちるに新發明施條銃の達する遠

西垣文庫

距離を命中するは法を知らず余最小江都に在
し特余が親友の藩邸にて狙撃を試みるを觀し
よ五十ヤルドより八十ヤルドの如く標的を置
き試むるを數回試みしに遂に一度も命中する
を得能くばるるの如く銃の距離を中けるを得能く
はんば何ぞとく遠く銃中て得んや且當今戦事
は近く接きばるる四百ヤルドより八百ヤル
ド迄の遠きに在て戦ふ故に命中を熟せんめて
近きも一百五十ヤルド又ハ二百ヤルドを隔て

多標的を置演習とて今試み五十ヤルドの距
離より一小標的を置き五発一中する者をして
五百ヤルドの隔りの大なる標的を中てた
で五十発より一中する者ありて愛り次
の二條に注意し第一の銃を清潔なるに
也第二の銃を正直に持てる若し清潔に
置るにんば銃を損むるを少くし且箇中不潔
なる時の弾丸を放して狙撃し且直中せしむ
るを得るに故に放散し後ハ速に掃除を

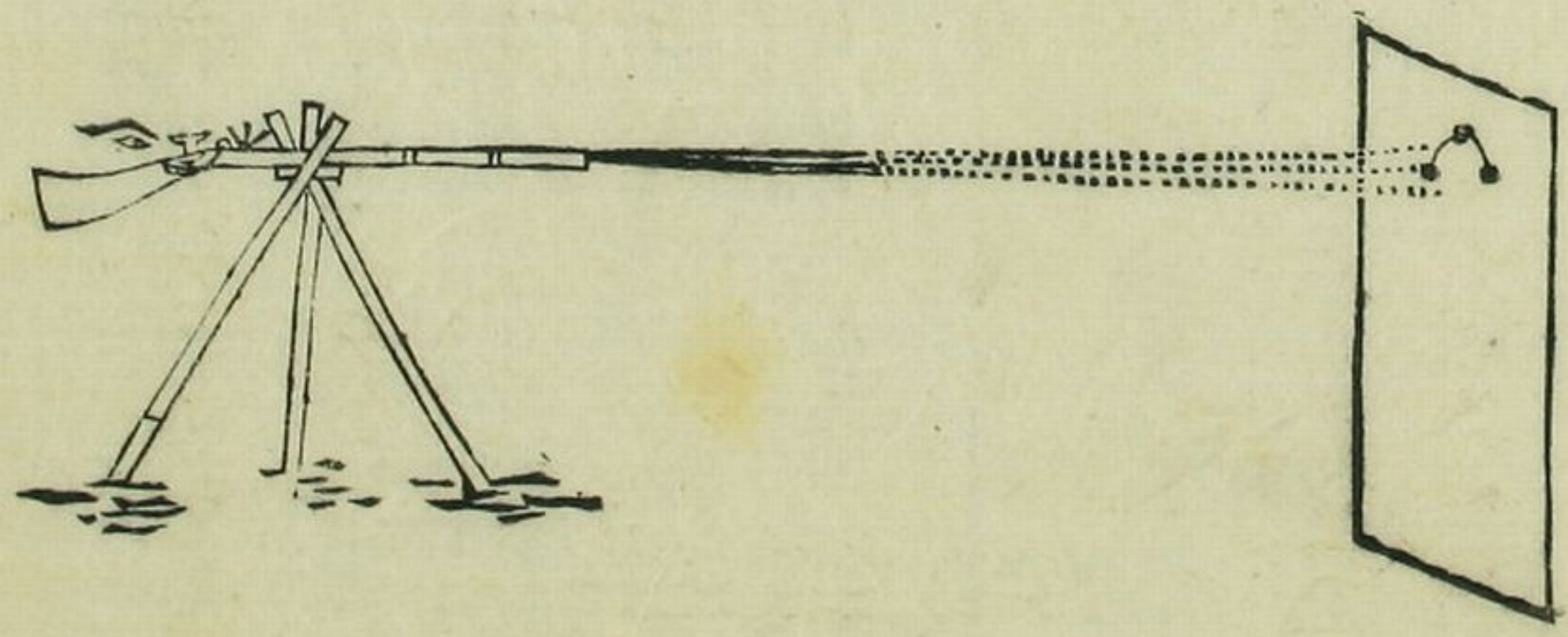
を尋常演習に用ひし時ちうとく煙埃附著
 故に「ラック」を織の古を柵杖の端に挿し筒中
 を拭ふを「ロック」金具並に繞るの大抵取り変を禁
 じ若し取る時ハ薑木を損するのちうに再び
 能く合ざる故に雨中は両水の漏き入るは恐
 り此筒中を掃除するは法を与ふべし放弁
 後ハ鶏頭を十分攀げ柵杖の端を「ラック」を
 以て包み筒穴より合を善く右手より巢口
 の火下部を持ち火門を前の方より図の

如くふし水を火門より流し
 出さるる筒中より冷水を洒
 ぎ入る柵杖を以て
 上下を交互
 数回繰り返す濁水
 を流し出し再三清冷水を
 以て煎の如く上下に清潔に至りて止む熱湯ハ筒
 中を暖むる故に交互して用づるに若し筒中熱
 氣のちうとく冷気を吸ひ湿汗を生ず是を拭ふ



と雖も全く冷り至らざるは水気を盡せんと
 能はざるが故なり而して乾きうる「ラック」を以
 て銃の内部外部とるも水気を拭ひとるべし殊
 子「ロツク」の邊に極めて丁寧拭ひ些少の湿気
 ルらるべしに床尾には蠟を少く塗り堅水
 を以て是を擦着し先沢の生むるに至る如此を
 是時ハるる所を美し又湿気を防べし総て発
 砲の理ハ正しく銃を持するを要し若し照星を
 左右に偏する時ハ彈丸ハ偏せし方ニ趣あり乃

ち因り於てとるなり今試
 銃を臺上ニ居へ動揺せしめ
 ば木板を標的とて本込銃
 の薬室を抜き筒中を窺ひ標
 的板の筒中ニ當る処ニ標
 的又左右に偏し最の如く標
 的を記す時ハ因の如きの透
 視生じあり
 第二集出板の後佛「エース」



船「コロラド」船脚「ヘルマン」船到着「コロラド」
ラド西洋弟四月三日二月廿九日「サンフランシスコ」を
出帆「同月廿八日横濱」に著を「太平洋」飛脚船社
中の定期を「より」ハ八日遅滞をり是定て「ニユ
ーヨーク」にて別子夏故「り」事と見へたり然
まども此悶愁も「礼拜」日暮に放弁を「著」炮の状
聲「て」一時に發散を「り」やうり此船西洋海の傳
信機を以て得くる弟四月一日迄の「ニコール
ク」新聞を載来まきり

英吉利國

英國太子の妃弟二月廿六日「女子」を産せり然
まども近日傳信機にて得たる新聞「は」産後危
病「して」多くハ状復を得る夏能ハざる也
○最「マ」ニストル「て」日本「に」来「マ」コロ子ル
「二」ル南亞米利加「キ」ト「地」子使節「た」う「が」過
日「キ」ト「ト」ク卒きり
「フ」イ「ニ」ン「アイルランド」に於て
車道を破壊「し」電氣線を截断「し」ポリズ「テ」ニエ
近頃各處「に」起り蒸氣

ン不備知或ハ人盗賊を捕フヘ
 たり然モ英兵既モ不叛黨の巨魁を捕ヘテ
 盡シ是を獄中ニ繋ギ此姦宥を速ニ拷治せんと
 此以中ニ往キ年戦争中前ノ亞国総督ト人ハ
 此叛謀中ニアイルランドを共和政治ノ獨立
 國ト為スさんト以テ余輩實ニ不以好惡亞人ノ其黨ニ
 入テ叛乱ヲ相扶クるヲ歎息セり

佛蘭西國

日本政府の爲小トローロン地ニ於テ鐵造の軍艦

を製ス改戦艦ハフリゲイトト六門の巨大
 炮を備フ此造艦の價大凡五十万圓トの龍動
 の近地小於テ亦日本政府の爲ニ二艘のゴン
 ボウトトの戦艦を製造ス○西洋弟四月一日ニバ
 ス小於テ大博覽會を開キり都地極メて雜沓ス
 但亞國ニ於テ甚ニ玄備キ毎事ト缺クるヲ莫クりト
 佛の新聞紙中の説ク此博覽會甚ニ佛帝
 の意ニ充タたシて預大衰微ニ至ラんと思ヘり
 衆人の少シく面白クとモ思ヘどモ每物頗ル高

價不廉ち色バ備く買求むる莫能ハざるへく○
 日本大君へ贈物として佛國よりアラビア馬廿
 五疋を送り来るコロント官テイニコル人并
 ニ佛皇帝の馬人伍長一人別み十二人と共ニ己
 子マルセルル地を發せり

北シエルマニル國

北シエルマニルハ近年戦争の後プルシアの属
 部となりし許多の國名有り此新合衆部の新會
 議官弟二月廿四日プルシア王ヲ拜謁を王甚だ

喜悅の色有り此合衆部を管轄する新政事を定
 むルニアハ其統主たり四十三人の大評議官
 の内十七人のプルシアより撰出を○北シエル
 マニルニニストルの日本未來るハ「ホンブラン
 ド」人を始として此人最マナルシアの「コンスル」小
 て横濱未來りしが今又再び來より去歲シエル
 マニルニ往きし時「アウストリア」の戦争將士起
 らんとし「ホンフラン」ド民兵國中守る爲に編制する軍隊に大
 の頭となりて直ニ戦々趣き乃「モレウイア」國の

總督奉行の副督とちりて「ボヘミア」國に於て數回
 戰争の時「コレラ」病盛行へき疾者甚多し弟
 一の副督も遂小此に係りて卒に「ボンブランド」
 ル亦侵襲を受けて瘡て則「エルマニ」の温湯に
 浴せり横濱在留人の締募るるに因て文官に轉
 ド「ミニストル」とちりて再此小未まりに北「エ
 ルマニ」合衆部の新旗号ハ黑白赤三劃の横線
 ちり軍艦の旗号ハ未だ是まらば

魯西亞國

日本使節波得り達して國帝小謁せり○モスコ
 ウトにて始めて瓦斯燈を用たり

澳斯太利亞國

國民の希望に因て國帝再び別艦を装して使節
 を日本へ送る事を許す

西班牙國

國中益々擾乱し國民公然として女王并に評議
 官を恨み罵り

意大利亞國

三月十日、日國人逆を謀り國王を刺んと企たり者、つぎどる幸ふして此危難を免れり。○日本へ送りし新「ニストル」コリントラートル名先北京、趣き支那と條約を結んで後日本未らん

希臘國

ギリレア近傍の島に数回の地震あり、人屋を潰壊し、数千人を殺せり。合衆國

亞國政府にて亞米利加州中の魯國領を金を出し贖せんとし、以價七百二十五万ドル然れども亞國中にて衆論紛紜たり、蓋し荒蕪無用の地をまばちり。○亞國の「ニストル」羅馬在潘を止めたり、余後ハ只「コンスル」を置のこゝと定む。○大卒海蒸氣飛脚船社中「コスタリカ」船、弟四月一日、奴約を出帆を以、火船ハ上海横濱の間を往復する飛脚船あり。○日本使節亞國にて諸奇蹟玩我偏覽を、就中合離術の試験ハ實小眼目を驚らす

きり又瓦斯製造を見る此人七年前に嘗て亞国
に來まり二君此瓦斯の用久くなく日本に
遍りんと願ふとつるり霰彈ライフル彈丸の
製造場をも觀て大息して歎ぢり亞人此使人の
像或写真を後華盛頓へ趣まらるる

「サンドウイチ島」

「サントウイチ島」在溜きら者小米利堅人の
ンリドより贈りたる破船の始末を記さる書
續支那人ハワイ島人并に日本人ハ戸喜三郎等

余と同く「ホノム」島よりリベル船に乗じて
「ホニコ」日本に向て出帆せし余輩實小不産
りし乗し処の船鑑を破壊したり此夜万死を
逃き漸く明朝激浪の間を凌ぎてつる島
小達を然まじも人煙絶てなく余等小飲水と与
ふる者あり此島に溜さる二十三日遂に小艇二
艘を別乗して一千四百里の海程を経て
「キニア」島に趣りんと一舟に八
九人を載たり此舟遂に余等の同船は二十二日

ちり内子婦人小児共ニ八人なり其艱苦實ニ言
 ふ多しとぞ辛くしてギコアム島に達せり此島
 の鎮臺病者及び衣食住ニ缺乏せり者を中心と
 して懇情を盡して遇待撫慰盡實小仁慈深き人也
 故に余輩彼が為り何如する艱苦支件ありと
 り心力を尽して其用子趣き其江海の恩に謝せ
 んとん

新張堂

